

京都国立近代美術館は、**1963年3月1日に前身である国立近代美術館京都分館として発足しました。**
2013年3月1日に設立50周年を
そして4月27日には
開館50周年を迎えます。

【関連イベント】

講演会：「交差する表現」
 3月30日(土) 午後2時～3時30分
 講師：山野英嗣(当館学芸課長)
 当館1階講堂にて、先着100席(聴講無料、当日午前11時から受付にて整理券を配布します)
 ※その他のイベントはホームページをご覧ください。

NFC 所蔵作品選集
 MoMAK Films 2013
 共催：東京都立近代美術館フィルムセンター
 4月20日(土)・21日(日) 午後2時より1階講堂にて松本俊夫特集：『銀輪』（1955年）「つぶれかかった右眼のために」(1968年)ほか
 4月20日(土)上映終了後
 松本俊夫氏によるアフタートーク
 ※詳細はホームページおよび上映プログラムをご覧ください

【同時開催】

イチハラヒロコ＋箭内新一「プレイルーム。2013」
 2013年3月16日(土)～5月6日(月)

※開館記念日の4月27日(土)は観覧無料です



【交通案内】＝●JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5番 岩倉行「京都都会館美術館前」下車すぐ ●JR・近鉄京都駅前(D1のりば)から市バス100番(急行)銀閣寺行「京都都会館美術館前」下車すぐ ●阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5番 岩倉行「京都都会館美術館前」下車すぐ ●阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス46番 平安神宮行「京都都会館美術館前」下車すぐ ●市バス他系統「東山二条」または「京都都会館美術館前」下車徒歩約5分 ●地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

お車でお越しの場合、岡崎公園駐車場(地下)をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台1名)を受けられますので駐車券をお持ちの上お越しください。

【展覧会のお問合せ】

京都国立近代美術館 [岡崎公園内]
 〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
 TEL.075-761-4111
 ホームページ: <http://www.momak.go.jp>
 テレホンサービス (展覧会のご案内):
 TEL.075-761-9900

CROSS SECTIONS
 Chronicle @ MOMAK 1963-2013

開館50周年記念特別展

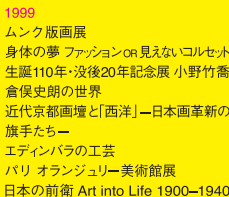
交差する表現
 工芸／デザイン／総合芸術

2013年3月16日(土)～5月6日(月)
 休館日＝月曜日(ただし、4月29日(月)、5月6日(月)は開館)
 開館時間＝午前9時30分～午後5時(毎週金曜日は午後8時まで開館(入館は閉館の30分前まで))

京都国立近代美術館 The National Museum of Modern Art, Kyoto

主催 京都国立近代美術館、京都新聞社 協賛 株式会社ヒューマンホールディングス株式会社、公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、京セラ株式会社、株式会社ワコールホールディングス 観覧料 一般 850円(700円60歳未満) 円、大学生 450円(350円25歳未満) 円 ※(内は前売券) 20名以上の団体料金 順 ※高校生および18歳未満の学生に障がいのある方と付添者1名は無料(入館の際に証明できるものをご提示ください)
 ※開館記念日の4月27日(土)は観覧無料です。
 ※前売券は、2月1日から3月15日までの期間限定発売。 ※前売券の発売場所：チケットぴあ(PIコード765553)、ローソンチケット(Lコード52398)ほか主要ブレイクガイド、コンビニエンスストアなど
 ※会期中、一部展示替があります。なお、5月10日まで4階コレクション展は開催しておりませんのでご了承ください。

1999 ムンク版画展
 身体の夢 ファッション or 見えにくいコレクト生誕110年・没後20年記念展 小野竹喬倉俣史郎の世界 近代京都画壇と「西洋」―日本画革新の旗手たち― エディンバラの工芸 バリ オランジュリー美術館展 日本の前身 Art into Life 1900-1940



2000 所蔵品でたどる 新しい造形表現―1960年から今日まで― 顔 絵画を突き動かすもの 麻田廣司展 色彩と空間のテキストスタイル STILL \ MOVING : 境界上のイメージ―現代オランダの写真、フィルム、ビデオ 没後70年記念 小出楯重展 万国博覧会と近代陶芸の黎明展 トーマス・シュワルト:マイ・ボート展

2001 ルネ・ラリック 1860-1945 展 前田青郁展 ミニマル マキシマル―ミニマル・アートとその展開 京都の工芸 [1945-2000] オーストリア・デザインの現在―揺るがせるデザインの世界 生誕100年記念 小松均展 シェナ美術館―絵画・彫刻・工芸の精華

2002 銅版画の巨匠 長谷川潔展 日本画への招待―人・花・風景―カンディンスキー展 アメリカ現代陶芸の系譜 1950-1990 自由の国のオブジェとつつわ スーラと新印象派―光と点描の画家たち クラクションから都市計画まで―ヘルマン・ムデウスとドイツ工作連盟:ドイツ近代デザインの諸相 1900-1927

2003 ウィーン美術史美術館名品展 ―ルネッサンスからバロックへ― 知られざるスウェーデンの美術 雷と権力、王国2000年の歴史 東松照明の写真 韓国国立中央博物館所蔵 日本近代美術展 横尾 by オオオ: 描くことの悦楽―イメージの過渡と再生 神坂雪佳展―琳派の継承・近代デザインの先駆者 オーストリア現代工芸3人展:未知のかたちを求めて ヨハネス・イッテン―造形芸術への道 テカダンスから光明へ 異端画家・秦テラの軌跡

2004 京都国立近代美術館コレクションから 日本洋画の130年 彫刻家:堀内正和の世界 COLORS ファッションと色彩 VICTOR & ROLF & KCI 近代日本画壇の巨匠 横山大観展 プラジール: ボディノスタルジア 没後25年 ハホー夫妻―現代陶芸の異才 ジャパン・エズモダン―創持男とその世界 痕跡―戦後美術における身体と思考

2005 草間彌生展―永遠の現在 京都国立近代美術館所蔵 川勝コレクションの名品 河井寛次郎展 村上華岳展 through the surface : 表現を通して―現代テキスト界の日交流 20世紀陶芸界の鬼才 加守田章二展 小林古彦展 堂本尚郎展 須田国太郎展

2006 ドイツ写真の現在―かわりゆく「現実」と向かいあうために ドイツ表現主義の彫刻家 エルンスト・バルハ 人と自然:ある芸術家の理想と挑戦 テンデルトヴァッサー展 生誕120年 藤田嗣治展 生誕120年 雷本憲吉展 プライスコレクション 若沖と江戸絵画展 都路華香展

2007 揺らぐ近代 日本画と洋画のはざまに アール・デコ・ジュエリーの世界:輝きの詩人 シャルル・ジュコフ、プシュロン、ラリックらの宝飾デザイン ノイスズ:鈴木昭男+ロルフ・ユリウス 福田平八郎展 舞台芸術の世界 ディアキレフのロシア バレエと舞台デザイン シビル・ハイネン:テキスト・アートの彼方へ 没後10年 麻田 浩 文承根+八木正 1973-83の仕事 カルロ・ザウリーア現代陶芸の巨匠



新収作品展―寄贈された M&Y コレクション 池田満寿夫の版画 プレイルーム。

2008 玉村方久斗展 ドイツ・ポスター 1890-1933 生誕100年記念 秋野不矩展 ART RULES KYOTO 2008 ルンワール+ルンワール展 「日本画」再考への序章 没後10年 下村良之介展 没後30年 W. ユージン・スミスの写真生活と芸術―アーツ&クラフツ展 ウィリアム・モリスから民芸まで 現代美術への視点―エモーション・ドロウイング

2009 上野伊三郎+リチ コレクション展 ウィーンから京都へ、建築から工芸へ 椿昇 2004-2009. GOLD/WHITE/BLACK ラグジュアリー:ファッションの欲望 京都新聞創刊130年記念 京都学「前衛都市・モダニズムの京都」1895-1930 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵(袋―平コレクション)より 無声時代・ビデオ映画ポスター展 生誕120年 野島康三 ある写真家が見た日本近代

ウィリアム・ケントリッジ―歩きながら歴史を考へる そしてロー・イングは動き始めた…… ボルゲーゼ美術館展 2010 マイ・フェイスリット―ある美術の検査 目録 / 所蔵作品から 稲垣伸・松次郎兄弟展 ロマニズム―19世紀写真と旅 Trouble in Paradise / 生存のエッセンス 「日本画」の前衛 1938-1949 上村松園展

2011 麻生三郎展 パウル・クレーン―おらならぬアトリエ 没後100年 青木繁展―よみがえる神話と芸術 視覚の実験室 モネ+ゴッッ / イン・モーション 「織」を極める―人間国宝 北村武賢 川西英コレクション「収蔵記念展 夢」とともに

2012 すべての僕が湧騰する―村山知義の宇宙 井田照一の版画 KATAGAMI Style―もうひとつのジャポニズム 近代洋画の開拓者 高橋由一 日本の映画ポスター芸術 山口華楊展

2013 交差する表現―工芸／デザイン／総合芸術

身体と表現 1920-1980 展 ポンビドゥーセンター所蔵作品から 増殖するイメージ 小牧源太郎 遺作展 テキスタイルの冒険―現代オランダの4人のアーティスト― プロジェクト・フォー・サバイバル 1970年以降の現代美術再訪: プロジェクティブ [意画的・投機的]な実践の再発見に向けて 結成100年記念 白馬会―明治洋画の革新

1997 大正日本画の異才―いきづく情念 甲斐庄椿吉展 北橋昇展―理知と幻想のシュルレアリスト モダンデザインの父―ウイリアム・モリス展 ドイツ現代写真展(遠・近) 萬歳五郎展 写真の誕生から現代まで―館所蔵の近代写真展! 漂流教室: イメージの図書館から―18人の中学生が創る18の展覧会 土田豊徳展 文人画の近代―鉄斎とその師友たち展

1998 村上三郎展 生誕100年記念 豊田勝秋展 新収作品展 1993-1997 没後90年記念 浅井忠展 森村泰昌 [空装美術館] 絵画になった私 テキスタイルの発言: イギリスの今日 生誕100年記念 岡鹿之助展 京都の工芸 [1910-1940]―伝統と変革のはざまに― 土谷武展 しややかな造形・生成するかたち



【国立近代美術館京都分館】

1963 現代日本陶芸の展望ならびに現代絵画の動向 ビュッフェ展―その芸術の全貌 工芸における伝統と現代 現代絵画の動向―西洋と日本 村上華岳の芸術 工芸における手と機械 シャガール展 北大路魯山人の芸術

1964 近代日本の洋画と工芸―明治・大正期 近代日本の洋画と工芸―昭和期 近代美術の動向―絵画と彫像

見島善三郎遺作展 現代イギリス彫刻展 ピカソ展―その芸術の70年 浅井忠の芸術 現代日本の工芸 現代国際陶芸展 榊の美術

1965 日本・カラー1964年―現代写真代表作展 特別陳列:東京オリンピック報道写真 近代日本画の歩み 小出楯重展 世界の染織(1)―エジプトとヘルシア 現代美術の動向 近代絵画の流れ 前衛絵画の先駆者たち 入江波光展 フォープ展 具象絵画の新たな展開

1966 戦後の油絵と版画 現代ヨーロッパのリビングアート 稲垣稔次郎展 現代美術の動向 岡田謙三展 / 併陳:近代日本の工芸 日本の近代絵画 富田深仙展 ミロ展 現代アメリカ絵画展

1967 第5回東京国際版画 ビエンナーレ展 現代アメリカのリビングアート

【京都国立近代美術館】

1967 近代日本の絵画(日本画)と工芸 近代日本の絵画(洋画)と工芸 近代日本画の名作 現代美術の動向 異色の近代画家たち 近代日本の工芸 現代イタリア美術展 勅使河原蒼風の彫刻

1968 デュフィ展 現代陶芸の新生代 土田妻禮展 ボナール展 モンリアーニ名作展 現代美術の動向 岡工河井寛次郎展

ロートレック展 1969 第6回東京国際版画 ビエンナーレ展 近代デザインの展望 山口薫回顧展 日本画の新人たち 菅井汲展 現代美術の動向 ゴーギャン展 現代イギリス版画展

1970 近代日本の工芸 東洋の染織 石黒宗昭回顧展 富本憲吉遺作展 現代美術の動向 現代の陶芸―ヨーロッパと日本 パーラ・ヘップワース展 英国風景画展

1971 エドワード・ムンク展 第7回東京国際版画 ビエンナーレ展 所蔵作品展 小倉友之助・河合卯之助二人展 近代日本の彫刻 ルネ・マグリット展 染織の新生代 現代の陶芸―アメリカ・カナダ・メキシコと日本 現代ドイツ美術展

1972 カルティエ=ブレッソン写真展 / 併陳:所蔵作品による近代日本の工芸 近代イタリア美術の巨匠たち 現代スウェーデン美術展 デューラーとドイツ・ルネッサンス展 現代美術の鳥瞰 ベーテル・ブリューゲル版画展 ヨーロッパの日本作家 ジェームス・アーンソール展

1973 第8回東京国際版画 ビエンナーレ展 所蔵美術館浮世絵名品展 所蔵品による欧米の陶芸 / 併陳:新収作品の紹介 吉原治良展 現代工芸の鳥瞰 グラフィック・イメージ 73 アメリカの日本作家 近代日本美術史におけるパリと日本 キリシタン美術の再発見―西洋と日本の出会い

1974 デ・キリコ展 ハンナ・ハッヒの芸術 アンディウー・ワイエス展 グラフィック・イメージ 74 沖繩の工芸 現代メキシコ美術展

1975 第9回東京国際版画 ビエンナーレ展 現代衣服の源流展 ボール・デルウォー展 異色の水墨画展―野沢沢洋・泥谷文英・小川千恵 香月泰男遺作展 フランス工芸の美―15世紀から18世紀のタペストリー シュルレアリスム展

1976 ボール・デービス展 近代の日本画―所蔵作品より / 併陳:ソ連政府寄贈福田平八郎作品展 ドイツ・リアリスム展 ドイツの現代陶芸 アメリカのキルト 異色の水墨画家―水越松南・山口八九子・楠達州 今日造形(織)―ヨーロッパと日本 キュービズム展

1977 ゴッホ展 第10回東京国際版画 ビエンナーレ展 イタリア 古版画展 / 併陳:近代日本の版画―所蔵作品より 金鈴社の画家たち ロシア美術館名作展 / 併陳:ソ連政府寄贈福田平八郎作品展 近代の日本画―所蔵作品より 現代美術の鳥瞰 今日造形(織)―アメリカと日本



フォンタネージ、ラザーと明治前期の美術 1978 ピカソ展 牛島憲之の芸術 オスカ―ニコソユカ展 佐伯祐三展 世界の近代画家 50人展 現代日本の工芸 ヨーロッパのポスター:その源流から現代まで 世界の現代工芸―スカンディナヴィアの工芸

1979 新収作品を中心とする所蔵作品展―絵画・版画・彫刻 安井曾太郎展 ソ連所蔵のフランス近代絵画展―ブーシキ、エルミターージュ近代美術館から 没後50年 岸田劉生展 異色の水墨画家―西晴雲・近藤浩一 路・山下摩起 プレ・インカノ染織 フランス絵画の巨匠たち―ボストン美術館秘蔵展

1980 遠水御舟の芸術展 遠瀧衣裳展 長谷川潔展 現代ガラスの美―ヨーロッパと日本 ポンビドゥーセンター / 20世紀の美術 新収作品を中心とする所蔵作品展―絵画・版画・工芸 1981 イタリア・ルネッサンス美術展 ハホー夫妻展

京都国立近代美術館は、本年開館50周年の記念の年を迎えます。

当館は、1963年に国立近代美術館(現・東京国立近代美術館)の京都分館として誕生しました。

そして設立に際しては、国立近代美術館の設置を熱心に誘致した京都市からも、

京都の地場産業である陶芸や染織など、

「工芸」に重点を置いて活動をしてほしいとの要請がありました。

それに応えるように当館は、工芸を中心とする活動を堅持展開し、

その姿勢は展覧会の開催のみならず、収蔵方針にも反映され、今日にいたっています。

このたび開催の運びとなった記念展も、もちろん工芸に焦点をあて、

テーマは「交差する表現——工芸／デザイン／総合芸術」。

それでは、なぜ「表現」という言葉を選んでいるのか。

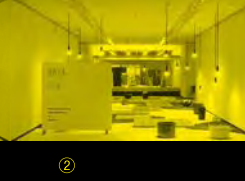
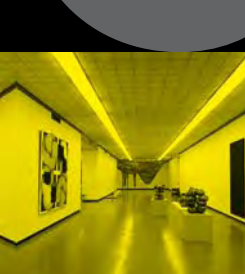
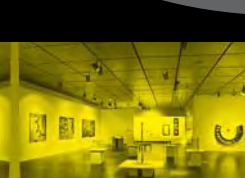
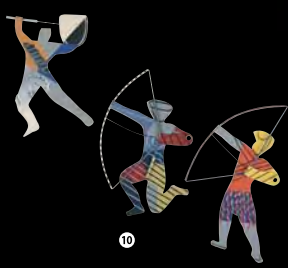
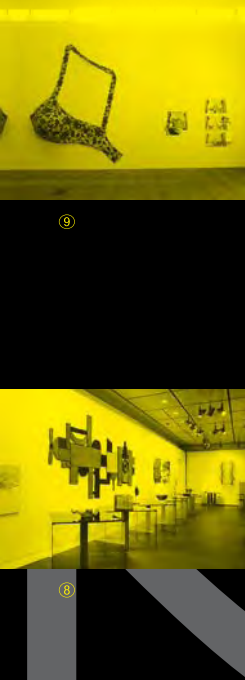
その理由は、現代の工芸の状況を見わたし、ふりかえって明治時代からの

わが国の工芸動向を再考すれば、陶芸が盛んにつくられたり、

すぐれた伝統の継承が行われる一方、もはや工芸の域を脱して、

ジャンルを超えて共鳴しあう「表現」にこそ、スポットをあててみたいとの思いが強いからです。

今回の展覧会では、全館を使った二部構成の展示により、「工芸」の「交差する表現」を探ります。



【第Ⅱ部】 美術館と〈工芸〉 ——所蔵作品より

長い伝統と卓越した技術の蓄積を有する京都という土地柄、京都国立近代美術館は工芸を重要な柱の一つとして、多様な美術館活動を展開してきました。これまで当館で数多く開催してきた工芸展の大きな特色は、広く美術全体で領域横断的に生じる様々な問題意識や、同時代の海外の新しい動向などを視野に入れ、自覚的に工芸を柔軟に捉えようとしてきたことです。絵画や彫刻はもちろんのこと、デザインやファッションにいたるまで、近接領域との緊密なつながりの中でこそ見えてくる。工芸の幅広さ、豊かさを示すことは、開館当初からの一貫した姿勢といえるでしょう。今回は、当館の工芸コレクションの核となっており、1980年代前半までの比較的早い時期の工芸展をきっかけに収集された、陶芸・染織・ガラス・ジュエリーなど約150点を中心に、改めて当館の半世紀の歴史と工芸コレクションの魅力を紹介いたします。

【第Ⅰ部】 〈工芸〉表現の一断面

わが国ではすでに明治時代から、万国博覧会に出品された〈工芸品〉は海外で高く評価されてきました。内国勸業博覧会でも、日本画を忠実に再現した染織品の出品など、工芸が、日本画の表現にも匹敵する迫力をもつことが示されています。そして伝統の継承とともに、アールヌーヴォーの影響をはじめとする東西の交流、やがて明確なデザイン意識の確立や、建築とも呼応するジャンルを超えた総合芸術の様相など、その表現性に注目し、多彩な〈工芸〉の展開を探ります。

- ①「北大路魯山人の芸術」1963年
- ②現代日本の工芸」1964年
- ③「小会友 代国際陶芸展」1964年
- ④「小会友 之助 河合卯之助 一人展」1971年
- ⑤「現代工芸の鳥瞰」1973年
- ⑥「今日の造形論」ヨロバと日本」1976年
- ⑦「現代工芸の鳥瞰」1976年
- ⑧「創立30周年記念世界の工芸」1983年
- ⑨「工芸スタイルの発言」1988年
- ⑩伊東忠木子清敏(平安神宮副 建物図面)1893年
- ⑪津井忠(けし)の花(陶器図案) (室立)1901年
- ⑫徳力彦(助)流線(型的なる造形設計)1934年
- ⑬「京都市美術館蔵」四代清水六兵衛(花瓶)明治後期
- ⑭「世界」上野伊三郎(リチスター)1939年
- ⑮「白地草花(絵巻)」1939年
- ⑯「河井寛次郎(白地草花(絵巻))」1939年
- ⑰「上野伊三郎(リチスター)1939年
- ⑱「下田三郎(リチスター)1939年
- ⑲「八木一夫(サムザ氏の散歩)」1954年
- ⑳「個人蔵」エスネル(ペル)守軍(戦士)1983年
- ㉑「戦く戦士」1984年
- ㉒「カビ」1984年
- ㉓「スタンリー・アイカーン(ティール&コーヒールビッツ)」1988年
- ㉔「ヒール・ライカーン(木製のカメラ型手袋)」1986年